

平成30年度 校内研修全体計画

平戸市立度島小学校

1 研究主題

「自分の考えを表現し、互いに学び合う算数科学習指導法の研究」

～交流活動の工夫を通して～

(1) 学校教育目標から

本校では、学校教育目標「自ら切り拓く子の育成」と校訓「やさしく かしこく たくましく」の下、家庭・地域と連携しながら、徳・知・体・食の調和のとれた人間性豊かで社会に貢献する児童の育成に取り組んでいる。これらの学校目標等を達成するために、本年度の努力目標として、「豊かな心を育てる」「確かな学力をつける」「体力と耐力をつける」を掲げている。特に、考え・議論する授業づくりや学力向上に向けた指導方法の工夫改善等により、自らの未来を切り拓き、心身ともにたくましく生きる力の育成が必要だと考える。

(2) 児童の実態から

本校の児童は、幼児期から少人数の集団で育ち、互いのことをよくわかりあっている。明るく素直な児童が多い。学習にも意欲的に取り組み、学習態度も落ち着いている。しかし、自分の考えを記述したり、自分の思いを表現したりする力を身に付けることが課題である。全国学力テストや平戸市学力テストの結果からいわずにB問題の正解率が低いことがわかった。また、3・4年生、5・6年生は複式学級であるため、話し合い活動を児童同士で進めることも多く、自分たちで議論しながら学び合う力の育成も求められる。

このような理由から、算数科学習における交流活動の工夫を行えば、自分の考えを表現し、互いに学び合う力や自分の考えを記述する力が高まるであろうと考え、本主題を設定した。

3 本研究の目標・めざす児童像

算数科の学習において、交流活動を通して自分の考えを表現し学び合う児童の育成

4 研究仮説

児童同士が自ら学びあう交流活動の工夫を行えば、自分の考えを表現し学び合う児童の育成ができるであろう。

5 研究内容

- 問題提示の工夫
 - 話し合う必要性のある問題提示の工夫
 - 話し合いの視点が明確な問題提示の工夫
- 少人数交流における手立ての工夫
 - 具体物を使った少人数交流の工夫
 - 交流活動の基本的なモデルの提示（話し合い活動のスキルアップ）
- 複式学級における交流活動の工夫